

II 特別連載 II

科学技術振興機構『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第137回

第8回 アフリカ開発会議(TICAD8)

公式サイドイベント 日本・アフリカ大学交流会議

■ 第1部(全体会議)

科学技術振興機構(JST)は、国際協力機構(JICA)、筑波大学、日本・アフリカ大学連携ネットワーク(JAAN)との共催により、第8回アフリカ開発会議(TICAD8)公式サイドイベント「日本・アフリカサイエンスイノベーションウィーク 日本アフリカ大学交流会議」を開催した。

同イベントは8月22日、Zoomミーティング及びウェビナーでライブ配信された。南アフリカ、チュニジアなどのアフリカの36カ国・地域を含む44カ国から263名が参加。第2部は学長円卓会議として日本とアフリカから21大学の参加により行われた。

JSTの橋本和仁理事長からの主催者挨拶で幕を開けた。橋本理事長からは両地域が互いを重要なパートナーとして位置づけ、緊密な連携のため人材交流を行っていくことの重要性や、その達成に向けて2023年度以降、さくらサイエンスプログラム(SSP)を通じてアフリカからの招へいを進め、将来に向けては年500名を目標として拡大することを目指す旨が話された。井出庸生文部科学副大臣からの来賓挨拶においては、両地域の交流を量的、質的に強化するためには、人的交流の活性化を通じた相互理解の深化が非常に重要である旨が指摘された。

講演においては、松本洋一



井出庸生 文部科学副大臣



橋本和仁 JST理事長



大塚 文部科学副大臣

外務大臣科学技術顧問より、ポストコロナを見据えたSSPのアフリカへの拡大の意義や、アフリカと日本双方に理解を持つ研究者が、共同で世界の諸問題の解決に当たることの重要性が指摘された。エジプト日本科学技術大学のアムル・アドリー長からは、同大がSTI(科学技術イノベーション)分野でアフリカの大学と日本の大学及び産業界、政府との橋渡しという重要な役割を担っていることが話された。

大塚 文部科学副大臣

また、筑波大学の永田恭介学長は、日本の大学によるアフリカとの関係づくりや継続的な学術交流においては情報、知見、人的資源、経験の不足に起因した困難さを指摘した。また、既に関係が構築されているJANなどを活用した、組織的ネットワークを利用した新しく開かれたコラボレーションの必要性などを提言した。ケニア国立ジョモ・ケニヤッタ農工大学のヴィクトリア・ワンブイ学長からは、日本政府の支援により、アフリカの人的資源の育成と日本への理解の促進がなされ

グループB	
ファシリテーター	渡邊聡教授 (東京大学グローバルキャンパス 推進本部副本部長)
大学	登壇者
北海道大学	横田篤理事・副学長
カルタゴ大学 (チュニジア)	Nadia Mzoughi学長
上智大学	曄道佳明学長
ガーナ大学	Nana Aba Appiah Amfo副学長
東京大学	渡邊聡グローバルキャンパス 推進本部副本部長
プレトリア大学 (南アフリカ)	Tawana Kupe副学長
東京医科歯科大学	森尾友宏副学長
ザンビア大学	Anne Lungowe Sikwibele副学長
東京外国語大学	松隈潤副学長
筑波大学	森尾貴広教授

グループA	
ファシリテーター	渡邊公一郎氏 (JICA国際協力専門員、九州大学名誉教授)
大学	登壇者
京都大学	河野泰之副学長
アジスアベバ大学 (エチオピア)	Emebet Mulugeta副学長
九州大学	河野俊行理事・副学長
エジプト日本科学技術大学	アムル・アドリー学長
長崎大学	伊東昌子理事
ケニア国立ジョモ・ケニヤッタ農工大学	ヴィクトリア・ワンブイ・ングミ学長
名古屋大学	水谷法美副総長
ダルエスサラーム大学 (タンザニア)	Mussa Mgwatu理事
静岡大学	近藤真副学長
ホウアリプーメディエン科学技術大学 (アルジェリア)	Djamila Halliche教授
東北大学	植木俊哉理事・副学長

ている点や、高等教育とSTI分野で、JICAを通じ日本政府とパートナーを組むことを通じた産業界との先端研究のさらなる発展への期待が話された。

講演を受けて、JSTからはSSPのプログラム概要説明の後、同プログラムを通じて

2023年度から継続的にアフリカから高校生、大学生、大学院生、若手研究者等を招へいし、その招へいを将来に向けて年500名を目標として拡大することを目指す旨の提言がなされた。提言を受けて、「Declaration for the Japan-Africa University Exchange Conference 2022 (仮訳：日本アフリカ大学交流会議2022宣言)」についての確認がなされた。参加大学をはじめとした参加者からの賛同と拍手を受けて同宣言は採択され、第1部は終了した。

■第2部 (学長円卓会議)

第2部では、2つのグループに分かれて大学紹介及びディスカッションが行われた。ディスカッションでは、修士、博士の人的交流の必要性や、SSPや地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)などのプログラムを活用した両地域の大学の学術/人材交流をリードすることの重要性、人材交流は小規模でも多数の好事例を積み重ねることが重要である観点からSSPが有効である点などの意見が寄せられた。

閉会挨拶では、JSTの甲田彰理事より同イベントを契機とした実際の大学間交流への期待が述べられ、会は盛況の中、終了した。同会議で採択された宣言文はJSTのHP (https://ssp.jst.go.jp/news/ticad8declaration_j.html) により公開されている。



日本・アフリカ大学交流会議の集合写真